2025年8月10日午前10時30分
聖霊降臨節第10主日 主日礼拝

司会 深町 穰
奏楽 川名ひさ子

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあきつ)

前 奏

招きのことば エフェソ 2:14-16, 19

讚美歌 2「聖なるみ神は」 一 同

交読詩編 107:1-9(P.123/119)

祈り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

松井田教会 島村教会 吾妻教会

(主の祈り)

讚美歌 58「み言葉をください」 一 同

聖 書 新約:ルカ 4:1-13(P.107)

メッセージ『共に生きるために』

祈り 望月奈津子 牧師

讚美歌 402「いとむととき」 一 同

献 金 一 同

(献金感謝の祈り)

信仰告白(平和の祈り(聖フランシス)) 一 同

頌 栄 94(5)

祝 禱 望月奈津子 牧師

後 奏

報告・紹介

<招きのことば>エフェソ 2:14-16, 19

キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。…従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族なのです。

《8月礼拝当番》 岡安茂能 伊藤普史
佐藤道子 廣瀬眞理
斉田アントニーナ

《今週の集会・行事》

◎ 川上牧師夏期休暇(12日まで)

◎ 15日(金)10:00 会堂清掃

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30

メッセージ『あのならず者が...』川上牧師

聖書:旧約:ヨナ 3:1-5(P.1447)

新約:使徒言行録 9:26-31(P.231)

讚美歌 6, 492, 442, 100(6)

交読詩編 71:14-19(P.80/76)

司会:植松みよ 奏楽:金井文子

《予 告》

◎ 交流バーベキュー 23日(土)18:00

◎ CS礼拝 24日(日)13:00

終了後、クリームソーダパーティ

◎ カラコン 31日(日)礼拝 & 礼拝後

《本日のメッセージ》

◎ 望月奈津子牧師...

《報 告》

◎ 8月31日は“カラコン”です

来年に迫った創立140周年について、記念行事についての話し合いをします。どうぞ今からご予約下さい。

◎ 交流バーベキューご参加下さい

8月23日(土)17:30から。会費はひとり500円(小学生以下は半額)。食材(肉・野菜等)とソフトドリンクは教会で準備します。それ以外の飲み物は各自でご用意下さい。また飲み物の差し入れも歓迎します。参加希望者は、掲示板の用紙にご記名下さい。

◎ 8月役員会報告(抄)

1.地区講壇交換に関する件...9/14 甘楽教会(石田透牧師)との間で行なう。礼拝後、カレー食堂で講師を囲んで昼食。

2.恵老礼拝(9/21)に関する件...75歳以上の方を対象に行なう。8/17に案内を差し上げる。今年75歳を迎える方には教会からプレゼント。

3.世界聖餐日礼拝(10/5)に関する件...川上牧師が前日小豆島で行なわれる集会に出席、最終の飛行機で帰る予定だが、不測の事態のためにビデオメッセージを準備しておく。また川上牧師未着の場合、聖餐式は中止とする。

4.カラコン(8/31)に関する件...礼拝座席は抽選で決める。近くの座席で礼拝直後簡単な自己紹介(私の長所・短所)。その後グループに分かれ、140周年記念行事のイベントの案を練る。

5.教会屋根改修に関する件...屋根の劣化状況について調べていたところ、雨漏りの予兆が発見され迅速な対処が必要となった。いくつかのプランが提示されたが、役員会としては雨漏り対応中心の案(予算約400万)が必要と判断、再度業者と話し合うこととした。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献 金
主日礼拝			

《メッセージ》「共存への道」川上 盾 牧師

ローマ 9:24-28(8月3日・平和主日)

▼8月は日本社会に生きる者にとって、戦争を平和を考えるのにふさわしい季節である。1945年の敗戦から80年、ふた世代が入れ替わる時間が流れる中で、過去の戦争責任を否定し、日本の再軍備を主張する人々が現れ、これに拍手を送る人が増えている。「今は新しい戦前」(タモリ)という言葉がリアリティを持つ時代に危惧を感じる。▼このような再軍備を語る人が、同じ熱量で訴えるのが外国人排斥につながるようなメッセージである(日本ファースト、アメリカファースト)。外部に敵を想定し、これを批判・排斥することを通して内側の結束を計る...これは古来から繰り返されてきた、戦争に至る人類の行動パターンである。▼異質な者・価値観を異にする存在に対する不安や恐怖を煽ることで、世界を対立や分断に陥らせる...そんなメッセージが幅をきかせる中で、私たちは「そうでないメッセージ、すなわち共存への道というものを聖書から受けとめたい。▼「神は私たちに憐みの器として、ユダヤ人からだけではなく、異邦人の中からも召し出して下さいました。今日の箇所に記載されたパウロのメッセージである。旧約聖書に記載された「神の選び」、それは「神はイスラエル(ユダヤ人)を選び、救いの道を示された」というものだ。▼保守的・伝統的なユダヤ人はこれを、「神はユダヤ人だけを救われた」(ユダヤ人ファースト)と受けとめてきた。しかしこれを、「神はユダヤ人をく通してすべての民を救いへと定めておられる」と広くとらえ、人々に伝えたのがイエス・キリストだ。▼パウロは元々は保守派であり、クリスチャンを迫害していた。しかしキリストに出会って価値の大転換(「目からウロコ」)を経験し、それ以来異邦人伝道に使命感を感じる伝道者となった。▼旧約聖書のメッセージは最初ユダヤ人に与えられた...イエス・キリストはユダヤ人としてお生まれになった...それはひとつの事実である。しかしそれは「ユダヤ人だけ」を救おうとされたのではなく、「ユダヤ人を通して」、すべての民に救いを届けるため...そう解釈するに至ったのである。パウロが引用した旧約の預言(ホセア 2:25)は、とかくユダヤ人ファーストととらえられかねない旧約聖書の文脈の中で、神のグローバルな救いへの道が語られているものだ。▼「異なる人々」を内なる感情のまま排除するのではなく、同じ命を受けた者同士共存する...それがその平和への道だと信じたい。そのために必要な物は何か?それは「武器」ではない。武器とは相手を信頼せず力でねじ伏せようとする心が持たせるものだ。必要なのは「言葉」である。仲良くすることが難しくても、言葉によって思いを届け合うことを通して折り合いをつける...そんな言葉の持つ力に信を置いて、たとえ好きになれない相手でもその存在を「大切に」する。そこに平和がある。